

令和5年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

大原里づくりトライアングル（京都府京都市）



【朝市】



【観光梅園づくり】



【オオムラサキの放蝶会】

【概要】

1 むらづくりの動機・背景

大原地域は、史跡・名勝と農村景観・環境を資源とする観光地だが、道路整備等による利便性の向上と引き換えに、地域の風情が薄らいだことで観光客数が減少していた。

また、農業者の高齢化や後継者不足、水路等の老朽化、基盤整備や農地利用集積の遅れ、獣害の拡大などにより、農村景観の荒廃が課題となっていた。

2006年、関係団体がそれぞれ実施していた朝市、土地改良施設の維持管理、水生生物調査等の資源保全活動を、地域一体的・網羅的に取り組むため、京都大原土地改良区を事務局とする大原里づくりトライアングル（以下「里トラ」という。）を設立した。

2 むらづくりの内容

里トラの構成員は、NPO法人京都大原里づくり協会等の非農家組織が半数を占めており、地域住民が一体で取り組んでいる。

里トラは、2006年度に農地・水・環境保全向上対策のモデル事業として活動を始めて以来、

- （1）老朽化が進む農業用排水路や農道などの補修・更新による農業用施設の長寿命化
- （2）遊休農地を観光梅園へ再生することによる景観の向上
- （3）農地や河川敷を侵食する雑竹林の伐採による景観や防災に寄与する活動
- （4）京都市立大原小・中学校と連携した、水生生物調査やオオムラサキ（国蝶）の保護活動による環境保全意識の向上
- （5）女性が活躍する料理コンクールの開催による食文化の継承
- （6）農業者が店頭立つ朝市を開催し、生産者の顔や生産物への思いなどを伝えながら販売することによる持続可能な農業の実現と地域コミュニティの活性化などに取り組む。

農業振興を超えた幅広い活動を計画的、段階的に進めており、地区内外から19名の新規就農があるなど、担い手の確保をはじめとする地域活性化に大きく寄与している。